

聖霊降臨後第7主日特禱（特定9）

神よ、わたしたちは主に拠らなければ、何一つ良いことはできません。どうか、主に従い、み心にかなうように生き、常に正しいことを思い、また行うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**

旧約聖書 エゼキエル書 2章1節—7節

2:1 主は私に言われた。「人の子よ、自分の足で立ちなさい。私はあなたに語りう。」2 主が語られたとき、霊が私の中に入り、私を自分の足で立たせた。私は、語りかける者に耳を傾けた。

3 主は言われた。「人の子よ、私はあなたをイスラエルの子ら、すなわち、私に逆らう反逆の国民に遣わす。彼らもその先祖も私に背き、今日に至っている。4 その子らは恥知らずで強情である。私はあなたを彼らに遣わす。そこで彼らに『主なる神はこう言われる』と言いなさい。5 彼らが聞こうと、反逆の家ゆえに拒もうと、自分たちの間に一人の預言者がいたことを知るようになる。

6 人の子よ、あなたは彼らを恐れてはならない。その言葉を恐れてはならない。たとえあなたが、いらくさと棘の中にも、また、さそりの上に座すとしても。彼らが反逆の家だからといって、その言葉を恐れてはならない。彼らの前におののいてはならない。7 彼らが聞こうと、反逆の家ゆえに拒もうと、私の言葉を語らなければならぬ。

詩 編 第123篇

- 1 神よ、わたしは目を上げてあなたを仰ぐ // あなたの住まいは天にある
- 2 主人の手に目を注ぐ僕のように、女主人の手に目を注ぐ女奴隷のように // わたしたちの神、主を仰ぎ、その憐れみを待ち望む
- 3 わたしたちに憐れみを、主よ、憐れみをお与えください // わたしたちはさげすみを耐え忍ぶ
- 4 わたしたちの魂はおごり暮らす者のあざけりと // 高ぶる者のさげすみを耐え忍ぶ

使徒書 コリントの信徒への手紙二 12章2節—10節

12:2 私は、キリストにある一人の人を知っています。その人は十四年前、第三の天にまで引き上げられたのです。体のままか、体の外に出てかは知りません。神がご存じです。3 私はそのような人を知っています。体のままか、体を離れてかは知りません。神がご存じです。4 その人は樂園にまで引き上げられ、人が口にするのを許されない、言い表しえない言葉を聞いたのです。5 このような人のことを私は誇りましょう。しかし、私自身については、弱さ以外は誇るつもりはありません。6 もっとも、私が誇る気になったとしても、真実を語るのだから、愚か者にはならないでしょう。しかし、誇るのはやめましょう。私について見たり、聞いたりする以上に、私を買いかぶる人がいるかもしれないからです。7 また、あまりに多くの啓示を受けたため、それで思い上がることのないようにと、私の体に一つの棘が与えられました。それは、思い上がらないように、私を打つために、サタンから送られた使いです。8 この使いについて、離れ去らせてくださるよう、私は三度主に願いました。9 ところが主は、「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ」と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。10 それゆえ、私は、弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰まりの中にあっても、キリストのために喜んでいます。なぜなら、私は、弱いときにこそ強いからです。

福音書 マルコによる福音書 6章1節—6節

6:1 イエスはそこを去って、故郷にお帰りになった。弟子たちも従った。2 安息日になったので、イエスは会堂で教え始められた。多く的人是それを聞いて、驚いて言った。「この人は、このようなことをどこから得たのだろうか。この人の授かった知恵と、その手で行われるこのような奇跡は一体何か。3 この人は、大工ではないか。マリアの息子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで私たちと一緒に住んでいるではないか。」こうして、人々はイエスにつまずいた。4 イエスは彼らに言われた。「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親族、家族の間だけである。」5 そこでは、ごく僅かの病人に手を置いて癒やされたほかは、何も奇跡を行うことがおできにならなかった。6 そして、人々の不信仰に驚かれた。それから、イエスは、近くの村を教えて回られた。